

NOM7におけるYWPイベント

～Science of Humic Substances: What is all about humic substances?～ 開催報告

Japan-YWP 運営委員 栗田宗大（電力中央研究所）

<開催概要>

日時：2019年10月8日（火） 16：50～18：25

会場：一橋大学一橋講堂（Conference Hall）

主催：Japan-YWP

プログラム：

16:50 Opening address：Japan-YWP Chair Yasuhiro Asada

16:55～18:25

特別講義 1 「**Purification and Characterization of humic substances; IHSS methods**」

Prof. Maria De Nobili (Ordinary Professor in Soil Chemistry Department of Agricultural, Food, Environmental and Animal Sciences, University of Udine)

特別講義 2 「**Behavior and characterization of humic substances in Japan**」

Prof. Seiya Nagao (Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University)

18:25 Closing address：Japan-YWP Vice-Chair Yuji Suzuki

<開催報告>

IWA Specialist Conference on Natural Organic Matter in Water（天然有機物質に関する国際会議：NOM7）@Tokyo で、Japan-YWP 主催の講演会を開催いたしました。フミン物質の専門家2名にフミン物質の科学について基調講演を行っていただき、総勢60名の参加がありました。

Nobili 先生からは、IHSS (International Humic Substances Society)で実施されている、フミンおよびフルボ酸の分離方法および土壌中有機物の特徴についてご講演いただきました。抽出方法や土壌の違いにより、抽出されるフミン酸やフルボ酸の特性が変化することが紹介されていました。

長尾先生からは、日本国内を対象にしたフミン物質の調査結果についてご講演いただきました。河川水および地下水、気候によって溶存有機物にしめるフミン物質の割合や特徴が異なることが紹介されました。また、酸やフルボ酸の IHSS method によるフミン物質の分離は時間と手間がかかり、現場で採取した大量のサンプルを迅速に分析することができないことが課題であるため、EEM (3次元蛍光分析) などを用いた、簡便な分析方法の必要性についても述べられていました。講演ではフミン物質の特徴だけでなく、水中のフミン物質が鉄と複合物を形成するため、沿岸地域のプランクトンの成長に重要な影響をおよぼす点についても紹介されていました。

講演を通して、水中や土壌中のフミン物質については、まだまだ明らかになっていない点が多く、今後も分離・分析方法や生成原理について研究を継続していく必要があると感じました。



会場の様子



講演される Nobili 先生



講演される長尾先生



イベント参加者との集合写真